

2008 年度

活動報告及び収支決算報告書



日本カトリック信徒宣教者会

2008年度 日本カトリック信徒宣教会 活動報告

1. 概要

今年度は新規派遣候補者3名迎え、研修を実施した。今年度は研修内容の見直しや研修担当者の強化を図り、充実した研修が行えた。

毎年行う「カンボジア・スタディーツアー」参加者を中心とした「CAMBODIA DAY」を昨年度に引き続き開催した。浅野美幸、高橋真也の報告に合わせ、参加者による分かち合いを行い、カンボジアに思いをはせる一日となった。当日は毎回のスタディーツアーで、現地において移動用車両の手配と運転を担ってくださっているヴッタ氏を招き、特別ゲストとして参加していただいた。

2009年度派遣候補者募集にあわせ、大阪会場、東京会場の2会場において「派遣候補者募集説明会」を実施した。

今年度は、名古屋教区、東京教区、横浜教区、新潟教区において精力的にチャリティーコンサートを開催した。名古屋教区では、昨年度開催したサクソフォン奏者2名に再度協力をいただき、カトリック城北橋教会とカトリック瀬戸教会において、～カンボジア・コンポルアン水上村活動支援のための～「サクソで奏でる教会音楽の調べ」と題しチャリティーコンサートを行った。また、12月には、有志によるコーラス隊を結成し、前述のサクソ奏者との共演によるコンサート～アジアの母子のための～「サクソで奏でるクリスマス音楽の調べ」を開催した。

カンボジアでは、ステンミエンチャイ地区において昨年度に引き続き、屋台貸し出しプロジェクトを中心に活動を行った。

コンポルアン水上村では、現地カトリック教会との協働により、識字教室、保健衛生などの活動を行った。また地域の人々に安全な水を供給できるよう、「水浄化プロジェクト」も継続実施した。

タイでは、現地教区の社会活動センターの活動に参加し、山岳民族の子どもたちのために設置された学生寮の運営協力を行ったほか、公立高校において日本語教師として活動した。

2009年3月には9名の参加を得てスタディーツアーを実施した。

東ティモールでは特定非営利活動法人東ティモール医療友の会 (AFMET) とともに、東部ラウテン県においてプライマリ・ヘルスケア普及に向け、活動を実施した。

各国派遣状況及び会員数は以下のとおりである。

2009年3月31日現在の派遣国と派遣者

カンボジア…5名、タイ…1名、東ティモール…2名

計 3ヶ国 8名

2009年3月31日現在の会員数 2,769(個人・団体)

内訳

個人… 1,346、教会… 332、修道会… 780、学校… 186、その他… 125

2. 各国活動

(1) カンボジア

1992年4月より内戦後の復興に取り組むカンボジア人、帰還難民者の支援をきっかけに信徒宣教者の派遣が開始された。バトタンバン省にて児童養護施設におけるソーシャルワーク支援、洋裁技術支援・ハンディクラフト制作による女性の自立支援。スヴァイリエン省にて試験農場、コンボンスプー省では幼稚園支援など、カンボジア現地 NGO を通じてのコミュニティ開発支援を行ってきた。

1996年6月14日カンボジア政府に JLMM カンボジアとして国際 NGO 登録を行った。

1998年1月から、カリタス・カンボジアとの協働によりプノンペン市郊外のステンミエンチャイ地区ごみ集積場周辺に暮らす人々のための生活向上支援、2001年12月よりバトタンバン知牧区内プルサート省コンボンルアンの水上市における住民との関わりを開始している。

また、2007年6月より、シムリアップ省クナ・トゥマイにおいてカトリック教会が地域の子どもたちに向け行っている子どもセンターの識字教室などの活動支援を開始した。

2002年度より浅野美幸(横浜教区)、2005年度より高橋真也(新潟教区)、2006年度より重富浩子(大阪教区)、2008年度より林愛子(京都教区)、濱田麻里(東京教区)を派遣した。

プノンペン市郊外のステンミエンチャイ地区ごみ集積場周辺に暮らす人々のための生活向上支援を浅野が担当し、トンレサップ湖上の村コンボンルアンの活動を高橋が担当、シムリアップ省にあるクナ・トゥマイ・センターでの活動を重富が担当した。林と濱田は2009年7月まで語学研修を行う。

I ステンミエンチャイ地区ごみ捨て場周辺に暮らす家族のための生活向上支援

1. 対象地域と地域概要

プノンペン市ステンミエンチャイ地区ルッセイ村

プノンペン市郊外ステンミエンチャイ地区ごみ集積場に隣接しているルッセイ村にて、主にごみ集積場内の有価物収入を主収入源として暮らしている家族115世帯を対象として活動した。

ステンミエンチャイ地区ごみ集積場では、1965年からプノンペン市内のごみが分別されることなく捨てられている。それらのごみの中からリサイクルが可能な有価物を集め、リサイクル業者に売り、生計を立てている家族が多く住んでいる。彼らの中には学校に行かずに働いている子ども、学校に行きながら働いている子どもがいる。十分な医療、教育を受けるのが困難な地域であり周辺住民の住居や生活環境が不衛生であることから、この地域では多くの NGO が活動を展開している。

2. 活動概要

1998年1月からカリタス・カンボジアとの協働で活動を開始。2002年12月カリタス・カンボジア撤退後 JLMM カンボジアが継続して活動を実施。

2003年にプテア・コマ(子どもの家)活動(プテア・コマ I)、2004年プテア・コマ II を開始。2005年2月より発達年齢に分けて週4日「大きな子どもの家」「小さな子どもの家」を開始。住民の希望により2005年10月から週5日の活動とした。2007年9月より幼稚園部を開始。

貧困や家庭の事情で小学校に行っていない子ども、及び落第や退学が多い対象地域での就学前の子どもたちへの幼児教育、衛生教育、識字教育を実施し、基礎的社会能力や知的能力を学び取れる経験の場を提供。「子どもの家」が小学校への架け橋になるよう生活指導を実施。カンボジア人スタッフ1名の他に子どもの家の先生2名、ヘルパー3名を雇用し活動を実施。

ドイツ「Die Sternsinger」から支援を受け実施した。

1) プテア・コマ(子どもの家)

a) プテア・コマ トム(大きな子どもの家)

対象年齢:クメール語子音の読み書き、1から10の数字が分かる6歳から12歳の児童20人

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
9:00	歌	歌	歌	歌	クメール 文字
9:15	道德のお話	お話	衛生のお話	お話	
9:20	クメール語	クメール文字	クメール文字	クメール文字	
10:00	数字	図工	ゲーム/音楽	お絵かき	
10:30	塗り絵	自由遊び	塗り絵	自由遊び	数字
10:50	絵本	絵本	絵本	絵本	
11:00	栄養プログラム	栄養プログラム	栄養プログラム	栄養プログラム	栄養プログラム

b) プテア・コマ トイ(小さな子どもの家)

対象年齢:クメール語子音の読み書きがわからない児童 50人。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
9:00	歌	歌	歌	歌	歌
9:15	お話	道德のお話	お話	衛生のお話	クメール 文字
9:20	クメール文字	クメール文字	クメール文字	クメール文字	
10:00	図工	数字	お絵かき	ゲーム/音楽	
10:30	自由遊び	塗り絵	自由遊び	塗り絵	数字
10:50	絵本	絵本	絵本	絵本	
11:00	栄養プログラム	栄養プログラム	栄養プログラム	栄養プログラム	栄養プログラム

c) プテア・コマ トイトイ(小さな小さな子どもの家)

対象年齢:3歳から5歳の乳幼児20人(遊び中心)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
9:00	歌 お話 自由遊び	歌 お話 自由遊び	歌 お話 自由遊び	歌 お話 自由遊び	歌 お話 自由遊び
9:30	鉛筆を使う練習	鉛筆を使う練習	鉛筆を使う練習	鉛筆を使う練習	鉛筆を使う練習
10:00	*1 設定保育/ 自由遊び	設定保育/ 自由遊び	設定保育/ 自由遊び	設定保育/ 自由遊び	設定保育/ 自由遊び
11:00	絵本読み聞かせ 栄養プログラム	絵本読み聞かせ 栄養プログラム	絵本読み聞かせ 栄養プログラム	絵本読み聞かせ 栄養プログラム	絵本読み聞かせ 栄養プログラム

*1 設定保育:図工やお絵描き、塗り絵やゲーム、パズルなど

2) 栄養プログラム

栄養価の高い食品を継続して摂取するのが困難な地域にあり、子どもたちは実年齢より幼く見える。健康を持続するためにも栄養のある食品を摂取することは重要であるためプテア・コマにおいて一日の終わりに子ども一人ひとりにコップ一杯分の豆乳を提供。また幼すぎてプテア・コマに来ることができない乳幼児で希望する家庭には豆乳を安く販売。病気で十分な栄養を摂取出来ない村人には豆乳ペットボトル1本を提供している。また6月から1月までサンドイッチを毎日子どもたちへ配布した。

3) 医療サービスと家庭訪問

ゴミ集積場内の分別されることなく捨てられるゴミにはビンのかけらが散乱し、その中で働く彼らは切り傷、皮膚疾患が絶えない。家庭には医薬品が無いため、傷が悪化する前に簡単な傷の手当てと指導を行なう。風邪の予防法のアドバイス、病院紹介、病院までの交通費や治療費を支援し、問題を抱える家族には緊急援助を行った。また、貧困家族対象に月2回の石鹼、洗濯用洗剤、虱石鹼、皮膚疾患予防石鹼を低価格で販売。

4) 移動図書館プログラム

カンボジアで活動する日本の NGO『SVA (社)シャンティ国際ボランティア会』の行う「スラム教育文化支援事業 移動図書館活動」をプテア・コマで実施。2008年1月より毎月一回行った。

5) 屋台プロジェクト

ゴミ集積場が2009年に閉鎖されるにあたり、現在ゴミ集積場で生計を立てている住民たちが、ゴミ集積場閉鎖後も自立した生計を立てていけるように、そして子どもたちが引き続き小学校へ通学できるように、仕事を提供し生活の安定を図っていくことを目的とし、屋台貸し出しプロジェクトを実施した。

『Phcuap Kdei Sankhum』『希望をつなぐ』という意味の協同組合ロゴマーク入りの屋台、ユニフォームを着用し、現在第二グループ7名の販売員が屋台での「ロツィ」というクレープ菓子をプノンペン市内の学校前で出展販売。販売員2名が屋台の稼ぎにより小さなアパートに引っ越すことができた。

3月に「JLMM 子どもの家」の子どもたちと動物園に行き親睦を図る。

活動資金の一部は、カトリック菊名教会(横浜教区)の青年グループからの支援を受けて実施。

6) その他

- a) プノンペン教区主催の幼稚園先生研修会に参加(11/20-22 Sophy、浅野 プサートウチ教会)
- b) プノンペン教区主催のセミナー「神のみ言葉」に出席(4/1-4 浅野)
- c) 月一回開催される「レイミッシヨナリーの集い」に出席
- d) カトリック NGO 会議に出席
- e) カンボジアで活動する修道会、カトリック NGO との連携
- f) 公立小学校、教育省、NGO など地域機関との連携
- g) カンボジア人大学生ボランティア受け入れ(2月)
- h) 『SVA (社)シャンティ国際ボランティア会』から、本の読み聞かせや本の扱い方の講習を受ける(3/31)
- i) 子どもの家クメール正月ゲーム大会(4/10)、子どもの家卒業式(10/3)、オリビエ神父(パリ外国宣教会)が運営する学生寮の男子大学生たちがプテア・コマにおいてボランティアでクリスマス会を開催 (1

2/17)、動物園に遠足(2/27)

j) 「菊名教会基金」の運用。

k) ドイツ「Die Sternsinger」助成金の子どもにおける運用と決算報告(4月、11月)

l) 外務省、教育省への月間活動報告、決算報告。

m) 大阪教区への助成金申請(12月)

n) 34組のべ314名のステンミエンチャイでのお客様の受け入れ

o) 人事

退職:プロジェクトアシスタント ステンミエンチャイ担当 Keo Vannary (2008年12月)

II プルサート州水上村コンボンルアン 生活向上支援

1. 対象地域と地域概要

プルサート州水上村コンボンルアン

水上村コンボンルアンは、カンボジアのほぼ中央にあるトンレサップ湖の上に位置している。この村では1,600世帯、6,000人の人々が船の家で生活しており、約70%がベトナム人である。住民は主に漁業で生計を立てているが、貧困世帯が多く生活全般に様々な問題を抱えている。住民は生活用水として湖の水をそのまま利用しているが、生活廃水や家畜の排泄物、ゴミなども全て垂れ流しにしているため、水質汚染は著しく健康に及ぼす影響も大きい。また、多くのベトナム人はカンボジア語が話せない、国籍を持たないといった理由で公共機関へアクセスすることができず、カンボジア社会から孤立した状態になっている。医療機関へかかることができないために簡単な病気でも死に至るケースが多い。子どもは言葉の問題から公立の学校へ通えないなどの問題がある。

2001年からJLMMカンボジアと住民の協力の元、水上教室を設置し、識字教育、住民によって組織された基本的な保健サービスの管理、運営を行ってきた。2006年6月より高橋がプロジェクトアシスタント1名と共に活動している。

活動資金の一部は、カトリック藤沢教会(横浜教区)「カンボジア福祉基金藤沢」、カトリック所沢教会(東京教区)、日本カトリック海外宣教者を支援する会、RODI 教区(イタリア)からの支援を受け実施。

2. 活動概要

1) 保健衛生プログラム

① 水浴びプログラム

週1回の水浴びプログラムを継続した。衛生指導や栄養指導も合わせて行い、健康状態の把握、爪切り、耳掃除、薬の塗布などのケアも継続している。水浴びプログラムに通ってくる子どもたちの湿疹や虱などの症状は、年々少なくなっている。また、JLMM カンボジアで準備している湿疹用石鹸、虱用石鹸を自ら買い求め日常的に使用するようになってきている。参加人数は季節によって異なるが、平均して50人程度。住民の協力もあり、村人自身の健康や衛生に対する意識も徐々に向上している。

② 病人支援プログラム

病院受診のための交通費支援、病院や病人受け入れ施設までの付き添い、難産の手術支援、軽症のケースに対しての健康相談や、健康管理などの教育・指導、食費の支援などを行った。交通費支援、病人訪問などに関しては、水上村教会の病人支援グループと共に協力している。病院に搬送した病人は、子宮癌、HIV/AIDS、目の病気、腸炎、火傷、結核、ヘルニア、肝炎、首や耳の腫瘍、インフルエンザ、

出産前の出血、手足の麻痺、交通事故による脳挫傷、肺癌、胸の打撲、心臓病など様々であった。病人支援数35名、60件あった。

③ホームケアプログラム

主に病人支援で関わった病人(病院から帰って来た病人など)の家庭を訪問し、在宅での簡単なケアや処置、栄養剤の支援を実施。また本人や家族、家族に対し健康指導や栄養指導、相談活動なども合わせて行っている。

2) 母子保健に関する活動

2008年度は訪問活動を行った。産前、産後の母親や乳児を訪問し、相談・指導活動を中心とした。母乳不足の場合は粉ミルクの支援を行った。

3) 識字教育プログラム

教会が運営する識字教室では、ベトナム人の子どもにカンボジア語とベトナム語の勉強を無料で教えている。JLMM カンボジアは、その学校のカリキュラム準備、教材の支援などを行っている。2009年3月末日現在、カンボジア人先生1人、ベトナム人先生1人の計2人がカンボジア語の授業を行っている。授業は午前2クラス。通っている生徒数は一年を平均して60人程度である。また午後ベトナム人の先生1人がベトナム語の授業を行っている。生徒は40人程度。

週に一度、授業後に先生とスタッフを含めたミーティングを行い、カリキュラムの準備や指導力の向上に努めた。また、幼稚園向けの研修会などにも先生が積極的に参加した。

2005年度から「日本カトリック海外宣教師を支援する会」の援助による通学船で、公立小学校への、子どもの送迎を始めしたが、大きな成果を挙げている。2008年10月の新学期に過去最多の27名の生徒を識字教室から公立小学校へ送り出したが、現在も大多数の生徒が継続して通っており、中途退学者は少ない。保護者と子どもを交えた、通学船使用についての説明などを含めたミーティングも年に2回行っており、また生徒に何か問題があると、家庭訪問や公立小学校訪問を行っている。2009年1月から、通学船利用者より、月2.5ドルの利用料を徴収している。これは通学船の維持費を皆で協力して負担しようとするものである。

2007年3月より「日本カトリック海外宣教師を支援する会」及び「横浜教区カトリック由比ガ浜教会」の援助による通学船で、識字教室に通ってくる生徒の送迎も始め、現在も順調に稼働しており、大きな成果をあげた。

今年度は年中行事(クリスマス会、卒業式、大掃除等)を先生、生徒と共に準備し、行うことが出来た。また、卒業生を連れてバスで遠足にも出かけた。

4) 家庭訪問調査

病人訪問や生徒の家族訪問にあわせて、家族構成や生活状況などのインタビューを合わせて行った。

5) 栄養改善プログラム

2005年2月より始まった栄養改善プログラムを現在も継続して行っている。栄養価の高い食事を提供し合わせて栄養指導を行っている。水浴びプログラムの後、週交代で豆乳と野菜入りのおかゆを配給した。

6) 奨学金支援(里親制度)

2007年10月から奨学金を里親制度に切り替え、2名の学生に対し、里親が奨学金を支援した。1名はコンポンルアン教会識字教室で勉強するために遠方からきた子どもへの生活費のための奨学金。1名はバタンバンで縫製を学ぶ生徒の生活費・教材費のための奨学金。

2007年12月に、刺繍を学ぶ生徒が結婚のため奨学金支援を中止。もう一人の支援は継続して行った。日本から里親支援をしてくださっている方は、2009年3月31日現在3名。

7) 公立小学校支援

2009年3月より、公立小学校への支援として、図書室の設置及び学校修理を始めた。どちらも校長先生より支援要請があり、検討の結果、支援を決定した。図書室設置のために必要なものを全てこちらが揃えてプレゼントするという支援の形をとった。また老朽化が進んだ床や壁は、生徒たちにとって危険だったので、修理できるところは全て修理を行った。1ヶ月で修理は完了。図書室設置に500ドル、学校修理に1,600ドル、合計で2,100ドルの支援を行った。

8) 浄水プロジェクト

2007年4月より湖の水を浄化して住民に安価で販売するプロジェクトを始めた。住民グループによる定期ミーティングでの話し合いで、2009年1月より今まで行っていたグループ内による販売を中止し、住民誰もが浄水を購入できるように決定。これは、水を購入する家族が少なく、浄水の製造量が十分に追いつくため。これにより、多くの人が水を購入するようになっている。2009年3月末日現在、月の販売ボトル数は平均で160ボトル(1ボトル=20リットル)である。

9) その他

- a) カリタス・カンボジアとバタンバン教区合同主催の社会福祉グループ研修会に参加
(2008/4/22-25 Ra)
- b) カンボジア人大学生ボランティア受け入れ(5/5-7/31)
- c) ボントンポン教会青年の勉強会にて、水上村の説明(5/13-14)
- d) スペイン人の医学生のメディカルミッション受け入れ(7/14-17)
- e) 識字教室大掃除、公立小学校入学手続き(9/18)、識字教室卒業式(9/19)、卒業生ウドンへ遠足(9/20)
- f) 「海外宣教者を支援する会」への助成金申請(11月)
- g) カンボジア全教区青年ミーティングに参加(2007/8/21-23 高橋)
- h) プサートーイ教会での幼稚園先生研修会に参加(11/20-22 Roat)
- i) バタンバン教区パストラルミーティングに参加、プレゼン(11/25-27 高橋、Ra)
- j) 大阪教区への助成金申請(12月)
- k) シンガポールの医者メディカルミッション受け入れ(12/20)
- l) 識字教室クリスマス会(12/23)
- m) Sr.トウーの病人受け入れ施設開所式準備、参加(12/31-1/1)
- n) カムカムメール歯磨き指導受け入れ(1/27)
- o) 「今井記念海外協力基金」への中間事業・会計報告(2月)
- p) イタリア Rodi 教区への助成金申請(2月)

- q) JMJ(Japan Mission Journal)原稿依頼執筆
- r) コンポソルアン教会担当司祭及び教会リーダーグループとの定期ミーティング
- s) コンポソルアン教会典礼の準備、協力
- t) 公立小学校、教育省、警察、漁業局などをはじめとする地域機関との連携
- u) カンボジアで活動する修道会、カトリック NGO との連携
- v) 「カンボジア福祉基金藤沢」の運用
- w) 各教会・個人へ向けた毎月の活動・会計報告
- x) 各NGO機関、施設の活動見学(School Aid Japan、Sister of Providence の施設、バタンバン州立孤児院、World Fish Center)
- y) 人事
 - 退職:識字教室先生 Thida (2008年5月)

Ⅲ シェムリアップ教会支援

バンテイミエンチェイ州・タオム村

1. 対象地域と地域概要

タオム村はシェムリアップから車で2時間ほどの所に位置する村で2002年にカトリック司祭が村人からタオム村に廃墟と化した教会があることを聞き、タオム村に入った。

そこには100年以上前に宣教師が建てた立派な教会があった。しかし戦争、内戦のため、教会は廃墟と化し、砲弾の痕や虐殺された人たちの血のあとなどがあり、たくさんいたカトリック信者たちもこの時に殺されたり、村から逃げたりしたと言われている。

神父がこの教会を見つけ、神父、シスター方、シェムリアップ教会の信徒達で教会の周りを整地し、2004年にヘリ神父が子どもセンターを設立。

村にはまだ電気も通っておらず、清潔な水もなく、生活用水は村を流れる大きなベージュ色をした川の水である。水場は牛や豚の水浴びや、動物のとさつ場でもある。また、近隣住民は水浴びや洗濯場しても利用している。こうした衛生状態の中、子どもも大人も胃腸病を患うことが多い。仕事も農業以外はほとんどなく、村人の生活は過酷な状態にある。市場も近隣にはなく、小さな商店で食料などを購入するが、季節によっては生鮮野菜が入手できず、食糧入手にも困窮する。

2003年に、バタンバン知牧区キケ司教が教会をカトリック教会の所有とする代わりに小学校を村の中に建設。現在、ほとんどの児童が学校に通っている。しかし教師達は休むことが少なくなく、学力はかなり低いと思われる。学校に通っているのに、自分の名前が書けない子どもがたくさんいるのが実情である。そして子どもは一日に何往復もする水汲み、豚の飼料づくり、餌やり、牛飼い、掃除、洗濯、炊飯、薪割り、皿洗い、兄弟姉妹の世話などたくさん家事をこなす。

2003年4月こうした児童を対象に、子ども達に楽しい時間を提供したいという神父の意向により、子どもセンターが設置された。

現在162家族。785人が生活している。

派遣者は、毎週月曜にタオム村に行き、3日から4日間村に滞在し、活動を行っている。

2. 活動概要

タオム・子どもセンター

- ①幼児から小学校6年生

センターの目的は「子ども達に楽しい時間を提供する」こと。様々な遊び(コーナー遊び)を提供し、子ども達は自分たちの都合のよい時間に来て、自分でやりたいことを選び時間まで遊ぶ。

<時間>午前8:00~10:00

午後2:00~4:00

<コーナー遊び>

パズル、積み木、おもまごと、絵本、塗り絵、絵画制作、木のおもちゃ、お人形遊びなど。

帰宅時には全員で片付けを行う。コーナー遊びの他、ゲームや体育遊びをし、終了時に全員で整列し歌を歌ったりお話をしたり、絵本の読み聞かせなどを行ったのち、食前の聖歌を歌い一人一人におやつを配布、帰宅。

ほとんどの子どもは色塗りが大好きで、色塗りの作品は派遣者が預かり、数ヶ月に一度作品をまとめて一人一人に返却している。週に一度、はさみやのりを使った製作活動を実施。子ども達が作った製作物をセンター内に飾り、子ども達の学習意欲向上につなげている。

一日2時間という短時間だが、家事に翻弄される子どもにとって、センターは楽しめる貴重な空間となっている。

一方、センターに子どもたちが来ることによって、家庭では大事な働き手を失うこととなつため、家庭によってはセンターに子どもを通わせない親も少なくない。

②ユース(15歳~19歳)セント・ビンセンシオ・ポールのグループ

15歳から19歳くらいの青年層を対象としたグループを設置。30人のメンバーで組織した。毎週月曜日17時から19時ごろまで活動を行う。カンボジア人スタッフ(カテキスタ)が中心となり、タオム・子どもセンター活動の補助として加わっている。

祈りから始まり、活動報告、キリスト教の勉強などを行い、祈りで終わる。

タオム村に外部からゲストが来た際には、宿泊場所の整備など彼らが行う。

毎週日曜日、ミーティングや家庭訪問、教会の掃除などの活動も行う。

③キリスト教の勉強(カテケージス)(15歳以上を対象)

毎週火曜日17時から19時ごろまで実施。派遣者はカンボジア人スタッフの補助として活動。

④既婚者

毎月一度派遣者を含めた3名のスタッフが分担し、宗教や道徳的なことを村の大人たちに伝える活動や、レクリエーション活動などを実施。派遣者はレクリエーション活動を担当した。

⑤その他

おかゆプログラムの実施。家庭訪問の実施。

シエムリアップ州クナ・トメイ村

1. 対象地域と地域概要

クナ・トメイ村は、ポルポト時代にタイの難民キャンプに非難していた帰還難民により作り上げた村と言われている。村には約140世帯、600人以上の人が住んでいる。

貧富の格差が激しく、高価な自転車に乗って学校に通う子どももいれば、学校に通えない子どももいる。また村内では賭博が公然と行われ、賭博のために家庭崩壊している家族も少なくない。

2002年、村内には教会によって「子どもセンター」が設置された。しかし、センタースタッフは教育の資格を持たないため、スタッフへの指導と子どもへの指導補助のため支援要請を受け、2007年6月より活動を開始。昨年度まで日々の活動に従事していたが、2008年4月よりタオム村での活動も加わったことにより、毎週金曜日と日曜日のみ活動を行った。

また指導スタッフが退職したため、現在はスタッフの養成ではなく直接子どもへの指導を行った。

2. 活動概要

1) クナ・トメイセンター

① 子どもセンター

センターの目的は、子どもに楽しい時間を提供すること。毎週金曜日の午前と午後コーナー遊びを提供している。

<時間> 毎週金曜日

午前8:00～10:00

午後2:00～4:00

<コーナー遊び>

パズル、積み木、おもちゃ、絵本、塗り絵、絵画制作、木のおもちゃ、お人形遊びなど。

帰宅時には全員で片付けを行う。コーナー遊びの他、ゲームや体育遊びをし、終了時に全員で整列し歌を歌ったりお話をしたり、絵本の読み聞かせなどを行ったのち、食前の聖歌を歌い一人一人におやつを配布、帰宅。

ほとんどの子どもは色塗りを好む。センターにいる間、ずっと色塗りをしている子どもも珍しくない。今年度、はさみやのりを使う製作活動も開始。子ども達が作った製作物をセンターに飾り、学習意欲向上の一助としている。

週に一日、2時間という短い時間だが、子ども達はとても楽しみにしていて、センターは子どもが楽しめる貴重な場所となっている。

② おかゆプログラム

毎週日曜日午後2時から子ども達をセンターに集め、宗教の話や色塗り、歌唱指導、ゲームなどをし、その後おかゆを配布。子ども達は100人ほど集まり、おかゆ作りは地元の中高生やシエムリアップ教会の中高生が作り、センターは青少年育成にも役立っている。

2) その他

- a) 毎土曜日シエムリアップ教会の掃除・カテキズムに参加
- b) 毎日曜日ミサ後教会学校のヘルプ
- c) プノンペン教区幼稚園教諭セミナーに講師として参加
- d) バットンバン教区パストラルミーティングに参加(11月25日から27日)
- e) 寄付者への3ヶ月に一度のお礼状送付

IV その他、事務活動

1) スタディーツアー・ボランティア・活動地見学

下記の日程で JLMM 関連カンボジアスタディーツアーを受け入れた。

2008年4月16日～22日	鎌倉げんきかい
4月23日～29日	山口神父一行
6月 2日～10日	礼拝会青年ボランティアグループ
6月25日～30日	礼拝会グループカンボジアツアー
7月31日～8月9日	JLMM 夏のカンボジアスタディーツアー
8月25日～9月4日	ベトナム、カンボジア体験学習
2009年2月 3日～13日	専修大学 SIA サークルカンボジアツアー
3月25日～31日	中高生、春休みカンボジア体験学習

ステンミエンチャイ: 上記以外に34組のべ314人のボランティア・見学・取材を受け入れた。

コンポンルアン: 上記以外に14組のべ84名の見学・取材・宿泊を受け入れた。

2) 日本の修道会との連帯

「ショファイユの幼きイエズス修道会カンボジア共同体」と活動や事務的内容等のミーティングを開催。ビザ申請の代行等を行った。

3) ラチャナ・ハンデイクラフト・バタンバンの支援

女性自立支援を行うローカル NGO「ラチャナ・ハンデイクラフト・バタンバン」の商品を JLMM オフィスにて受託販売。バザー用、個人オーダー受注、日本への発送作業などを行った。

4) JLMM 研修生の長期海外研修受け入れ

JLMM 研修生であった林愛子を7月30日～8月28日まで受け入れ。ステンミエンチャイ、コンポンルアン、タオムそれぞれで受け入れを行った。

5) 黙想会・祈りの集い

- ・5月22日～25日 プルサートにあるFr. ヘルナンの農場において、JLMM メンバー4人による黙想会を開催。
- ・月に一度、プノンペン事務所にて祈りの集い及び活動報告を実施。

6) 一時帰国

重富浩子 6月17日～ 7月 6日

浅野美幸 10月 6日～11月 6日

高橋真也 10月11日～11月12日

10月18日 JLMM Cambodia Day に浅野・高橋がカンボジア人運転手ヴッダ氏と共に参加

10月23日 カトリック新聞取材(浅野)

7) 一時帰国報告会

重富浩子

6月21日 大阪教区カトリック今市教会教会学校

22日 大阪教区カトリック今市教会

浅野美幸

10月12日 横浜教区カトリック雪ノ下教会

18日 JLMM Cambodia Day(六本木フランシスコ会修道院)

19日 横浜教区カトリック菊名教会

26日 横浜教区カトリック貝塚教会

11月 2日 横浜教区カトリック菊名教会

高橋真也

10月14日 長谷川ファミリーほのぼのコンサート(新潟教区カトリック米沢教会)

15日 長谷川ファミリーほのぼのコンサート(新潟教区カトリック山形教会)

18日 JLMM Cambodia Day(六本木フランシスコ会修道院)

19日 さいたま教区カトリック所沢教会

20日 サレジオンシスターズ(山中湖黙想の家)

26日 横浜教区カトリック由比ガ浜教会

31日 新潟清心中学・高校創立記念日「命を見つめる日」(新潟市)

11月 1日 青年の集い(新潟教区カトリック新潟教会)

2日 横浜教区カトリック藤沢教会

横浜教区カトリック菊名教会

4日 横浜双葉高校 高1の総合学習2コマ(山手)

海外宣教者を支援する会運営委員会(四谷上智大学構内SJハウス)

5日 白百合女子大 講義1コマ(調布市)

コングレガシオン・ド・ノートルダム修道院(調布市)

9日 東京教区カトリック松戸教会

8)その他

- ・ 関係各位へのクリスマスカード送付
- ・ プノンペンオフィス移転(12月15日)
- ・ カナダ聖体大会参加 2008年6月18日～23日 高橋真也

(2) タイ

タイへの派遣は、2000年に一年間のインターンとして、本橋奈々子(東京教区)をウボンラチャタニー教区、ラチャブリ教区、そしてチェンマイ教区のそれぞれのDISAC(ダイサック:Diocesan Social Action Center:教区社会活動センター)に派遣したことから始まる。

本橋奈々子を2004年にチェンマイ教区 DISAC へ派遣。DISAC と協働し、少数民族支援(主にカレン族)のための農業指導およびハンディクラフト関連の活動を行い、2006年に任期を終了。

2005年2月17日、日笠山万希子(2004年度・福岡教区)を同 DISAC に派遣。2005年7月までの語学研修期間を経て、少数民族のラフ族の教育支援を行う傍ら、ウボンラット学校において英語教師として活動した。(2008年3月16日任期終了)

2007年3月20日より松本和歌子(2006年度・福岡教区)を新たに派遣。日笠山とともにラフ族の子どもたちの教育支援活動などを行った。また、サンカムペン公立高校において日本語教師としてタイ人高校生との関わりを持った。

I ラフ族村での活動

1. 対象地域と地域概要

チェンマイ教区 DISAC の歴史は、宣教師たちが少数民族対象の活動を始めた1931年にまで遡るが、正式に設置されたのは1975年で、人的開発のための社会活動を目的としている。CCTD(タイカトリック開発協議会)に属する一組織であり、代表は司教が務める。

タイには現在10教区あり、すべての教区にDISACが設置されている。それぞれの地域に根ざした活動を実践していることから、教区により活動内容は異なる。タイ北部地方は少数民族が多いことから長年、少数民族との活動を展開してきた。チェンマイ教区 DISAC の活動範囲は、チェンマイ県、チェンライ県、プレー県、ナン県、ランプーン県、ランパング県、パヤオ県、メーホングソーン県の北部8県である。

チェンマイ教区 DISAC の活動は多岐にわたり、主に、聖書、女性、青少年、農業、カレン族(リーダー育成グループ、米配給)、諸宗教との対話などが行われ、少数民族などでグループ編成され、それぞれが協力し合い、村において活動が行われている。

DISAC は現在まで30年間カレン族やローカルタイ人のサポートを中心的に行ってきたが、2004年度よりニッポー神父が中心となり、ピトゥ(DISAC・農業専門スタッフ)、ナハー(ラフ族出身で村在住)、ナイヤナ(DiSAC・Catholic Commission for Women チェンマイ代表)、スチャート(カチン族出身・RTRC ボランティアスタッフ)、トン(ルワ[ラワ]族出身、RTRC/プラオチルドレンホームスタッフ)と共に、ラフ族が抱えている問題について解決していくための活動を展開している。

ニッポー神父が所長を務めるチェンマイ市郊外にあるRTRC(Research and Training for Religio - Cultural Community)は、少数民族のためのセミナーやプログラムが頻繁に実施されており、他のスタッフと共にセミナーやプログラムの実施運営の補助などに携わった。RTRC 内にはラフ族事務所が設置されており、日笠山と松本はここに属する。また、活動拠点地は RTRC に加え、赤ラフ族の住むポンパー村(チェンマイ県メーアイ郡)である。

2006年5月より教育支援が本格化し、2009年3月現在で11名(パン1名、プラオ10名)の子どもたちが村から離れて就学、今年で4年目になる。3月末時点でメーサイの13名が退学した。身分証明書不所持による移動の制限、家庭の経済力、学習意欲の欠如などが退学原因である。この数年間の活動の中で新たな問題点、改善点が浮上し、村人とスタッフの間に溝が出来つつあることは否定できないが、よりよい人間関係を土台とした活動の改善、発展は村のみならず私たちの未来にとって重要であり、JLMM の派遣者はそれに十分寄与できる重要な位置にいるといえる。

2. 活動概要

- 1) 聖家族カトリックセンター就学者、ポンパー村、ラフ族事務所間の連絡調整。
- 2) 聖家族カトリックセンターへ付き添い(長期休暇前後)
- 3) 「よき牧者の会」運営の学校にて就学中の女子に面談(不定期)
- 4) 村の子ども達を対象にピアニカ教室(不定期)
- 5) ポンパー村会議(不定期)
 - ・就学問題

・経済問題

・RTRC におけるトレーニングプログラム等の説明(農業・手工芸品)

II RTRC 関係活動

1) ラフ会議(9月19日～20日)

ラフ族の宗教指導者が集まり年1回開催される会議。

村と RTRC との連携・協力方法の見直しを中心に話し合いを行った。

2) プラオチルドレンホーム

チェンマイより車で約1時間半。

ドイツ人支援者グンター氏の支援により11月15日開所。

スタッフ2名(RTRC 関係者)、料理担当1名、用務担当1名の計4名。

週末時、グンター氏が支援する学生(アカ族6～8名)と JLMM(松本)がボランティアで滞在。

入寮者5歳～18歳の山岳少数民族(ラフ族28名・アカ族41名・カレン族2名)71名(2009年3月現在)近隣またはプラオ中心にある3つの公立校で就学。

建設計画時、様々な問題が発生し計画そのものが中止になりかけたが、ニッポー神父やピトゥ、ナイヤナなどが加わり運営が可能となった。RTRC が直接運営を行うことで経済的な支援者であるグンター氏と合意。しかし、チルドレンホーム開所後は、運営方針等で RTRC 側、グンター氏との間に相違があらわれはじめた。また、実質的にはグンター氏が全ての運営方針を決定、実行しているため、定期的に RTRC 委員会とグンター氏が会議を行っているが未解決の問題が常に多数ある。

JLMMとして、週末2日間女性スタッフの補助を中心にチルドレンホームに滞在。

- ・ 13歳以上の子どもを対象に日本語教室(2時間)
- ・ ピアニカ(鍵盤ハーモニカ)教室・グループレッスン(1時間)
- ・ 6歳以下の保育補助
- ・ 朝晩の農作業(草取り・水撒き)の補助

3) パラン・チャイ・プーイン

メーサイの聖家族カトリックセンター、DiSAC/Catholic Commission for Women の手工芸品を中心に、水俣カトリック教会または女性団体等で販売を行った。同時に、タイにおける女性の自立支援、また女性たちが人身売買や麻薬から身を守るための活動を行っていることを説明し、寄付金も少額であるが集まった。これを機会とし、Naiyana と女性を対象とした活動の活性化を話し合い、RTRC における女性を対象とした部門を「パラン(力)・チャイ(心)・プーイン(女性)」と名づけた。

この活動の説明をスタッフに行い、Thong(ルワ[ラワ]族出身)と共に、ラフ族・ルワ[ラワ]族の村を中心に巡回することとなった。ルワ[ラワ]族の活動参加の動機として、現在、多くの若者が村を離れ都市部へ流入。ルワ[ラワ]族の伝統・習慣が消えつつあることに危機感を持っており、活動の参加によって、ルワ[ラワ]族の伝統・習慣の保護につなげたいとの Thong の意見により協働することが決定した。

- ・ ラフ族の村において、手工芸等に関心のある女性等を募り、RTRC で行われるトレーニングプログラムへの参加を呼びかけ。
- ・ ルワ[ラワ]族の村において、村で織られている布を「パラン・チャイ・プーイン」で購入。チェンマイにあるマリナー(修道会運営の女子職業訓練校)、または経済的自立を目指す手工芸技術をもつ女性たちに雑貨等の製作を依頼。

- ・ ローカルタイ女性からの参加促進。(Naiyana 担当)
- ・ 各自の活動状況報告、手工芸品のデザイン・品質等の話し合い。(不定期)
 ※2009年4月より、活動の主旨に賛同していただいた、ローカルタイの女性から手工芸指導の協力を得ている。また、チェンマイにある HIV/AIDS シェルター「バーンサバイ」でも、販売協力を得た。

Ⅲ チェンマイ教区および教区社会活動センター(DISAC)関係

1) チェンマイカテドラルにおいて叙階式が行われた。

叙階式前後で DiSAC・Catholic Commission for Women の製品を販売。(6月7日)

2) DiSAC 新任責任者着任

DiSAC スタッフと共に JLMM 及びタイでの活動について説明。(11月14日)

3) Catholic Commission for Women 主催女性対象有機農業・手工芸セミナー

(於:RTRC 2009年2月23日～25日)

- ・ 各民族の織物の特徴・意味を知る。
- ・ 各民族の伝統的織物を使用し、雑貨等を製作する過程をスタッフが説明・指導・実践。
- ・ 有機農法の説明・指導(ピトゥ担当)。環境への影響として、水俣市が行っている環境保全の取り組みを紹介。

4) DISAC 主催女性セミナー

DISAC が主催する女性対象のセミナーに参加。生活の中に、聖書を積極的に取り入れていこうとするもの。セミナー開催中のミサ時の伴奏を担当。(2009年3月14日～15日)

5) DISAC スタッフへのピアノ指導(不定期)

Ⅳ サンカムペン中学高等学校(サンカムペンスクール)

1. 対象地域と地域概要

チェンマイ市内から、約20kmの郡立中高一貫校である。生徒数約1,800名。チェンマイでは中規模の学校になる。ほとんどの生徒が、近隣の地域から通学している。100名ほどが学校に隣接している寮から通学。学校周辺は、有名な傘の産地であるため大型の観光バスが行き交う観光地である。サンカムペンスクールの生徒たちの両親のほとんども、商売に関わっている。生徒たちも帰宅後や休日は、家の手伝いに追われている。そのためか、大学への進学希望者よりも、技術校などへの進学希望者が多い。

学校の方針として、語学に重点が置かれている。英語・フランス語・中国語・日本語に分かれる。日本語は英語の次に生徒数が多いが、卒業後も続ける生徒は最も少ない。理由の一つとして、チェンマイ県内の大学において、日本語専攻には教職課程がない。また公立校において、日本語教師は公務員として正職員の採用枠が無いに等しいためである。

日本語のクラスでは、これまでタイ人教師による授業が行われており、平仮名での読み書きは、どの生徒も特に問題はない。しかし、漢字・会話の授業は、ほとんど行われていなかったと言ってよい。これはサンカムペンスクールに限ったことではなく、タイ全体の日本語教育現場での問題点である。タイ人教師自身が、漢字・会話を不得手としているため、授業は文法中心となってしまっているのが現状である。また、タイの教育現場で、生徒に発言させるということはあまり熱心に行っていない。

現在、サンカムペンスクールでは週3日(月火水)活動を行っている。高校1年生から3年生の日本語授業を、タイ人教師と分担して行っている。主に、会話と漢字の授業を担当。

2. 活動概要

1) 日本語クラス授業(週3日)

高校1年生～3年生の漢字・会話の授業を担当。

	月	火	水	時間
				国家斉唱
1時限	M4(高1)	M5		8:20-9:10
2時限				9:10-10:00
3時限	M5(高2)	M4	M6	10:00-10:50
4時限				10:50-11:40
5時限				11:40-12:30
6時限	M6(高3)	クラブ活動	M4	12:30-13:20
7時限				13:20-14:10
8時限				14:10-15:00
9時限	M5(高2)			15:00-15:50

2) チェンマイ市内高校生スピーチ大会(年数回)

校内での選抜、スピーチの文章作成・スピーチの指導。

3) 長期休暇中 M5、M6 生徒への補習授業(3月中旬～5月中旬)

4) 日本祭、校内文化祭、外部団体訪問時の準備及び当日の業務

(生徒への日本語スピーチ指導・ゆかた着付け・日本文化紹介等)

- ・ 世界数学大会関係者サンカムペンスクール視察・日本語クラス訪問受け入れ(2008年10月28日)
- ・ 韓国高校生サンカムペンスクール視察・日本語クラス訪問受け入れ(2009年1月13日)

5) 日本国際交流基金日本語教育担当者サンカムペンスクール訪問・研究授業(2008年11月11日・毎年1回)

V その他の活動

1) YPD カレン・トレーニング・プログラム(2008年4月10日～15日)

2) バーンサバイ(HIV/AIDS シェルター)でのボランティア(不定期)

チェンマイ近郊にあるシェルター施設「バーンサバイ」においてレター発送補助、

入院患者、入所者自宅等への訪問。バーンサバイ女性入所者の退所後の受け入れ先紹介(ナイヤナ・修道会運営施設に協力依頼)等を行う。

3) その他

a) 日本人訪問者活動地訪問受け入れ

RTRC(2008年4月25日)

ポンパー村(2008年6月12日)

プラオチルドレンホーム建設予定地(2008年7月21日、11月23日)

b) DiSAC スタッフ黙想会(2008年7月17日～18日)

c) JLMM 派遣候補者長期研修受け入れ(2008年7月30日～8月28日)

d) JLMM 事務局タイ訪問(2008年11月13日～18日)

e) 「アジアの風」(スタディーツアーグループ)受け入れ・DiSAC において手工芸品販売補助(2008年12月29日)

f) JLMM スタディーツアー(2009年3月7日～14日)

(3) 東ティモール

1999年に発足した東ティモール東部ラウテン県ロスパロス郡トリスラ地区でプライマリ・ヘルスケアの普及啓発活動を行う現地国際 NGO「東ティモール医療友の会 (AFMET)」(現 特定非営利活動法人東ティモール医療友の会)に、薬剤師と看護師を派遣したことから派遣活動を開始。

2006年1月3日、佐藤邦子(名古屋教区)をコーディネーターとして派遣した。2006年5月には東ティモール国内において騒乱があり、外務省から避難勧告が通達され、日本へ一時帰国するという事態となった。

2006年9月末、東ティモール国内がある程度落ち着きを取り戻したため、再度派遣し、活動を再開。

I プライマリ・ヘルスケアの普及促進事業

A. 人材育成 (Capacity Development)

(1) CHW による村でのセミナーの開催促進と実績

2008年8月に始まったラウテン県での SISCa プログラムの実行に伴い、従来行われていた形での CHW による村民対象のセミナーの開催を促進・補助は行われなくなった。これに変わり、2009年3月から、SISCa の PSF トレーニングを受け、PSF として活躍している AFMET の CHW が、各々の村の SISCa の拠点での保健セミナー開催を担当している。

表1 SISCa プログラムにおける PSF(CHW)による村落でのセミナー実績

年月	グループ名									
	第1-2ブロック		第3ブロック		第4ブロック		第5ブロック		第6ブロック	
	セミナー回数	参加者数	セミナー回数	参加者数	セミナー回数	参加者数	セミナー回数	参加者数	セミナー回数	参加者数
2009.2	3	48			1	7				
3			2	142	1	33	1	15	1	111
合計	3	48	2	142	2	40	1	15	1	111
昨年度	8	219	8	582	6	250	11	418	7	281

(2) CHW の知識、技術向上(アドバンスセミナー)

CHW 養成セミナーを終了し、現在各村で活動中の第1～7ブロックの CHW に対して①ヘルスプロモーションセミナーの効果的な開催方法、②政府結核プログラムについての2項目のアドバンスセミナーを実施。

①ヘルスプロモーションセミナーでは実習も積極的に取り入れ、CHW が村でセミナーを行う際、図表による視覚教材のみではなく、劇や歌を取り入れるなど、より効果的にセミナーを行う方法を学んだ。

②政府結核プログラムでは AFMET スタッフの他、県保健局から結核プログラム担当者を招き、CHW の結核に関する知識向上につなげることができた。セミナー後のテストの結果からも CHW がセミナー内容をよく理解できていたことが伺えた。

表2 2008年度アドバンスセミナー

トピックス: ヘルスプロモーションセミナー開催方法(実習付き)	2008年	第1&2ブロック:6名
	4月16日	第3ブロック:13名
	4月17日	第4ブロック:17名
	4月23日	第5ブロック:21名
	4月24日	第6ブロック:14名
トピックス: 政府結核プログラム	2008年	第1&2、3ブロック:14名
	11月26日～27日	
	2009年	
	1月7日	第6ブロック:12名
	1月8日	第7ブロック:19名

(3) CHW の育成(第7ブロック)

昨年度より、Lore I; Chai, Titilari, Maloru, Ochochau, Horolate, Vailana, Lore II ; Haitupuka, Ililapa, Nuhalate の9つの村において、第7ブロック CHW の養成セミナー(第5回～第15回)を実施した。

10月20日、Lore I、Horolataにおいて正副理事長をはじめ在東ティモール北原巖男大使、県保健局長、ラウテン県知事等多数の来賓出席のもと第7ブロック CHW 養成セミナー修了式を開催。新たに25名の CHW が誕生した。

表3 第7ブロック CHW 養成セミナー一覧 2007年11月から2008年3月まで

年月	セミナー内容	参加者数
2008.4	トピックス;結核 /甲状腺腫/小児の成長発育	25
2008.5	トピックス;保健教育の方法、応急処置の方法	24
2008.6	中間テスト	23
2008.7	トピックス:トレーニングセミナーに対する評価、薬草、栄養	24
2008.8	トピックス:PHC セミナー開催方法と実地トレーニング	25
2009.9	修了式についてのミーティング スタディーツアー(Clinic Madre Sao Damião, Calitas Baucau 見学)	25

(4) CHW 連絡協議会(CHW Collaboration Committee, CCC)活動

2008年5月7～9日、CHW 連絡協議会の会員6名がデシリで開催されたコミュニティーリーダーのためのキャパシティビルディングトレーニングに参加。

B. 生活保健助け合いの会 (Cooperative Group)

CHW が活動する各村落において、CHW だけではなく住民も自ら参加し、PHC をより身近なものにしていくため、「生活保健助け合いの会(Cooperative Group)」設置。同助け合いの会は、薬草の栽培及び活用、また石鹼製造などを行い、実践面からPHC を実施していく。

2008年7月9日、Bauro において第1グループが発足。その後、全18グループが発足した。

(1) 薬草石鹸の製造、販売

6月20日に薬草石鹸の製造方法についてセミナーを開催し、CGリーダーの知識技術向上を図った。

薬草石鹸製造パイロット地域として10グループを設定、製造を開始し、それぞれに石鹸製造、製品ラッピングのトレーニングを実施した。

2009年3月現在、18のすべてのグループで薬草石鹸製造が開始され、石鹸の販売による現金収入を得ることができている。

(2) 薬草石鹸を村落内で活用

18グループでコミュニティ内、及び周辺住民が石鹸を購入し活用。

(3) 薬草栽培に関する研修の実施

6月17～19日、薬草の栽培・処方についてのセミナーを実施。生活保健助け合いの会の各リーダーの知識、技術取得を行った。

12月11、12日に、生活保健助け合いの会のメンバーに対する薬草栽培研修の実施に先立ち、AFMET スタッフに対し研修を行った。研修には専門家を招き、薬草園作り、栽培、保存法等を学ぶスタッフの知識技術向上を行った。

(4) 住民の保健衛生に関する知識、意識の向上

11月25～30日、ロスパロス市で開催された地域物産展にて生活保健助け合いの会が製造した石鹸を販売するとともに、メンバーによって石鹸使用による衛生効果についてのセミナーも開催し、イベント参加者に向け、ヘルスプロモーションを行った

(5) 生活保健助け合いの会のない村落への薬草石鹸と薬草のプロモーション活動

2月25日、3月25日にロスパロスのFM放送局(RCL)にてAFMETスタッフによるヘルスプロモーション番組をそれぞれ30分間ずつ放送した。

また、薬用石鹸を利用し、手洗や毎日の入浴を促し、保健衛生に対する意識の向上を目的とした「プライマリ・ヘルスケア啓蒙」ポスターを500枚作成。CHWに配布し、村落内で掲示するほか、県内ヘルスポストにも配布し、掲示した。

C. 生活保健助け合いの会代表者会議 (Cooperative Group Representative Committee)

CHWが活動する第1ブロックから第7ブロックすべてにおいて、生活保健助け合いの会代表者会議(CGRC)設立の趣旨に関する説明会を実施。

同代表者会議の趣旨や活動に関してほとんどのCHWから理解を得ることができた。

2009年2月5日に第1回生活保健助け合いの会代表者会議開催。18グループ中17名の代表者が参加。AFMETスタッフによる司会進行のもと、CGRC組織化の目的、活動予定などについての説明を行った。また、現在のグループの活動状況を代表者一人一人が報告を行った。

2009年度以降、二カ月に一度会議開催を行う。

D. 連携構築

(1) 政府母子保健プログラムへの協力

保健省の新規保健プログラムである政府母子保健プログラム(Servico Integrado de Saude Comunitaria(SISCa))への協力を開始するに伴い、保健省が主催したSISCaのモニタリングチーム、Master Trainers Team(MTT)、District Trainers Team(DTT)のトレーニングにAFMETスタッフが参加

し、MTTとして1名、DTTとして3名の認定を受けた。

MTT、DTT はファミリーヘルスプロモーター (FHP)と呼ばれる地域保健ボランティアの住民向けトレーニングの協力を行う。また、保健省や県保健局が主催する様々なセミナーや会議、トレーニングにも参加した。

SISCa における FHP は、医療従事者の補助やヘルスプロモーション活動に従事する。AFMET の CHW も一部 FHP を構成している。

2009年1月よりロスパロス・ラウテン地域での SISCa が開始された。

AFMET の担当する8つの地域 (Mahina I・II、Pairara、Com、Leuro、Rasa、Lore II、Fuiloro)で行われる SISCa では、AFMET スタッフが調査を行い、SISCa プログラムの中でも特に FHP の活動がより充実したものとなるようサポート、アドバイスなどを行った。

今後、県保健局、ロスパロス病院、コミュニティーヘルスセンター、各村の村長、他 NGO との連携を強化し FHP の活動サポートを行い、SISCa プログラムの向上に協力していく。

今年度、参加・協力した SISCa 関連のセミナー、ミーティング等

・保健省主催

Master Trainers Team トレーニング

District Trainers Team トレーニング

SISCa-WorkingGroup ミーティング

PSF (FHP) トレーニング

SISCa Working Group

・県保健局主催

蚊撲滅キャンペーン

SISCa-Monitoring & Evaluation-セミナー

ラウテン県での母子保健活動に関する DHS 担当者 NGO 担当者合同会議

ラウテン県保健医療担当者会議

SISCa program socialization meeting

SISCa program support meeting

Health Promotion & Education キャンペーン

BSP (Basic Service Package) Presentation

・複数機関合同主催

MTT リフレッシュトレーニング (保健省、NGO-TAIS 共同主催)

”Health Promotion, Mother & Child Health, Nutrition” Monitoring & Evaluation 会議 (保健省、県保健局合同主催)

Behavior Change Communication (BCC) Strategy for Child Health for the Message Design (保健省、NGO-TAIS 主催)

・その他

ラウテン県病院・ヘルスポスト担当者会議

Distribution of Supplement キャンペーン (インターナショナル NGO 主催)

ラウテン県インターナショナル NGO ミーティング (AFMET 主催)

(2) 学校保健事業

教師・学童への学校保健教育導入に対する意識調査を、県教育局長を交えて行った。県教育局としても学校保健教育導入に関して積極的であることが確認された。

これを踏まえ、AFMET スタッフが教材・教育方法などの具体的な教育案を作成し、県保健局の担当者に提出。今後実施に向け、定期的に協議を重ね検討していく。

(3) 政府結核プログラムへの協力

AFMET では政府結核プログラムに参加し、以前より結核患者の発見・治療にあたってきたが、今後、さらに潜在的な結核患者の発見、治療に努めていくため、地域保健行政と連携・協力するとともに、CHW の参加協力を積極的に行うこととした。

8月4日、5日に県保健局主催の政府結核プログラム担当者セミナー、9月24日～26日に保健省主催の政府結核プログラム年間評価にそれぞれ参加。

10月21日、保健省の結核プログラム担当者が AFMET を訪問し、CHW の協力も視野に入れて進めていく方向で話しあっていくことに決定。

11月6日、県保健局の結核プログラム担当者、ロスパロス病院長、検査室責任者を交えて CHW のプログラムへの参加の是非について話し合いを行い、CHW に対して行われるアドバンスコースのトピックに結核を取り入れ、知識の向上を図ることとした。

また、2月18日にはリキサ県にある Kkibur Domin (クリブルドミン/ローカル NGO)を訪問、施設見学を行い、同 NGO の CHW の協力のもと、実施している結核プログラムについての説明を受けた。

(4) 栄養プログラムへの協力

保健省主催の Nutrition Working Group に定期的に参加した。

同グループは、政府、国際援助団体、国際 NGO を中心に主に母子を対象とした栄養の取り方に関する保健教育について話し合われている。

SISCa は、保健教育活動や栄養補助食品配布の良い機会となっており、母子対象にビタミン A の投与、世界食糧計画(World Food Program/WFP)の支援によるトウモロコシと大豆からできている、母子保健プログラム用の離乳食「Corn Soya Blend(CSB)」の配布など行っている。また、母乳の与え方、バランスのとれた食事の取り方などのトピックで保健教育活動を行っている。

(5) 県保健局移動診療(モバイル)プログラムへの参加

保健省、県保健局主催の移動診療(モバイル)プログラム”Immunization of Tetanus Toxic campaign”に AFMET スタッフおよび CHW が協力した。

(6) サニテーションプログラム

2009年1月20日、NGO-Plan とラウテン県でのトイレ設置プロジェクトの進め方について協議。

1月30日には Plan デイリ事務所においてプログラムコーディネーターより Plan のサニテーションプログラム戦略の説明を受けた。

Plan はラウテン県において Community Led Total Sanitation (CLTS) と呼ばれる、住民のトイレに対する意識変革を促し、外部支援を得ないで自主的にトイレ設置を行うプログラムを展開しており、今後 AFMET と情報共有していく。

また、2月23日には首都ディリにおいてサニテーション・ワーキング・グループ会議が開催され、AFMET スタッフも参加。ここでは、政府、国際援助団体(UNICEF 等)、NGO 別に、それぞれの立場から情報交換を行った。

II 公的保健・衛生活動への協力事業

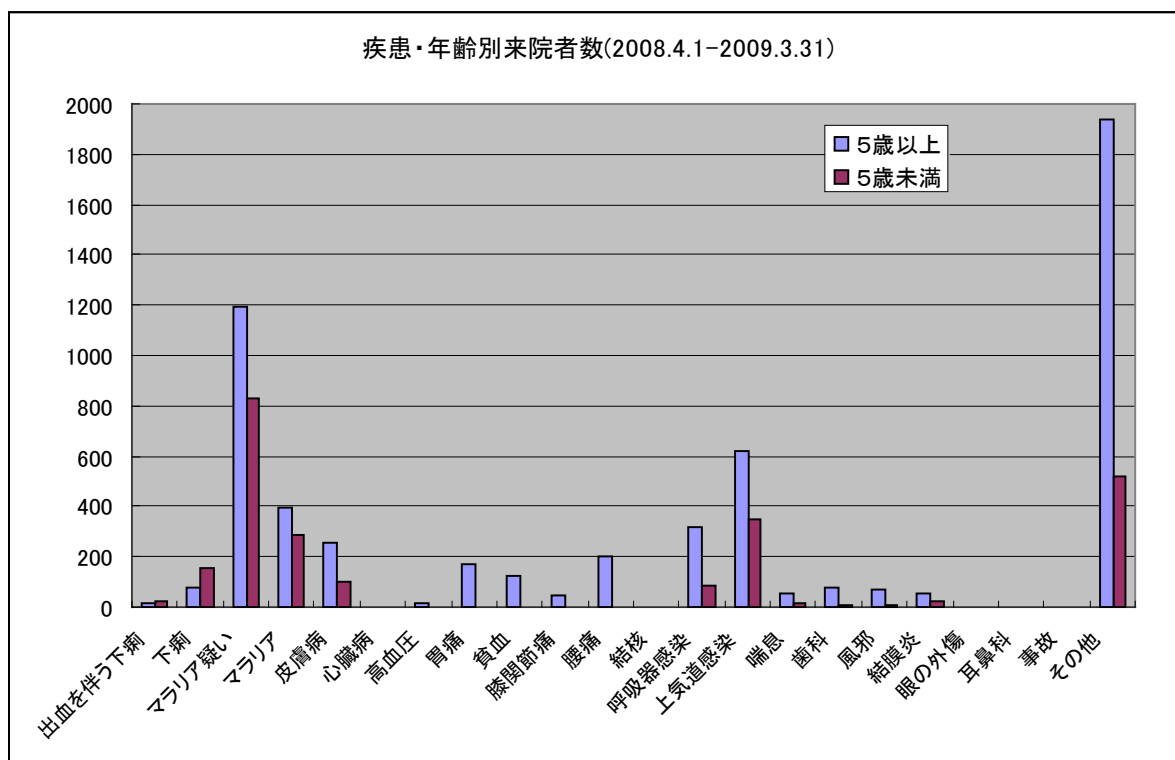
(1) クリニック業務の継続と充実

AFMET リフェラルセンターをクリニックとして利用、クリニック業務を月・火・金曜日の午前 8:00 から 11:00 まで実施した。

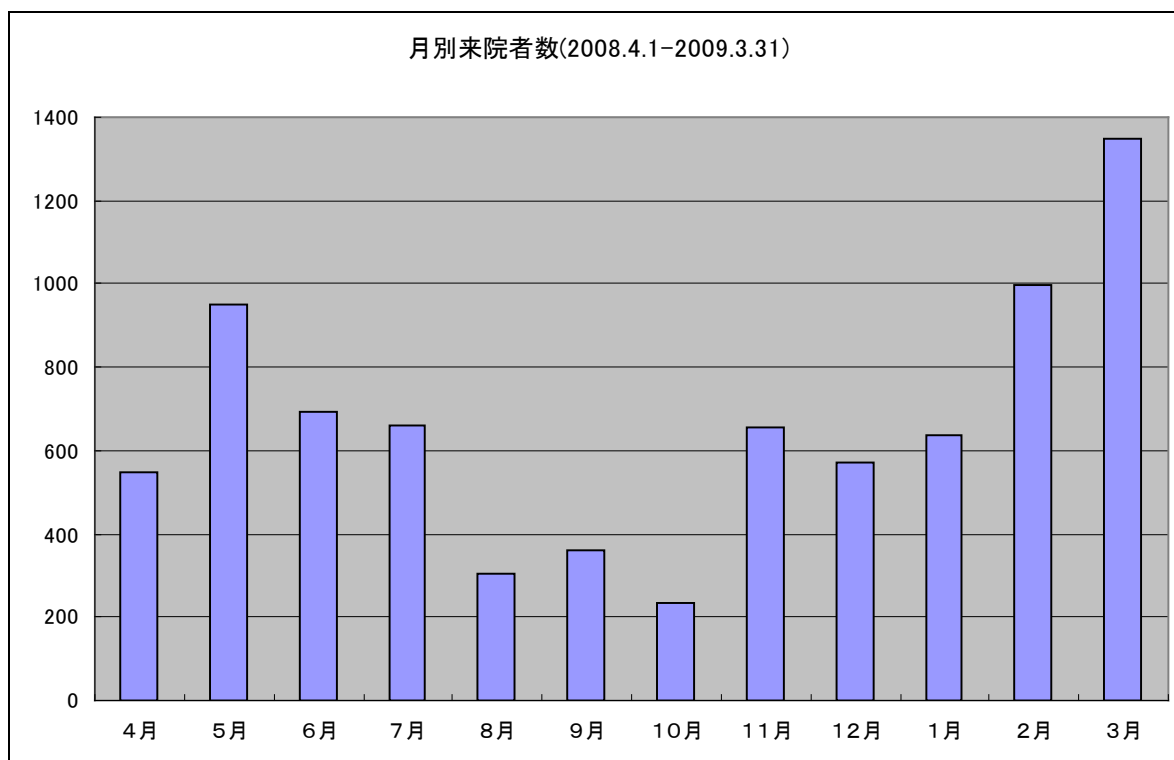
県保健局からラウテン県ヘルスポストとしての正式認定を受け、薬の安定的供給ならびに看護師の派遣を受けられるようになり、公的医療機関として活動した。

疾患別、月別の患者数は以下のとおり。

グラフ1 来院者数（5歳児以上/未満）と疾患内容



グラフ2 月別来院件数



(2) 患者訪問と救急搬送

2007年度から国立病院に救急車が常備されたことから、前年度に比べ救急搬送依頼件数が減少傾向にあった。

緊急患者の訪問と救急搬送実績は次のとおり

表2 疾患別 患者訪問と救急搬送実績 件数/回数

年月	マラリア	下痢	風邪	出産	外傷	事故	その他	合計
08.04					2	2	7	11
05	1			4	3	1	5	14
06	2			2		1	7	12
07			1	1	1		5	8
08				1	1		4	6
09	4			5		1	2	12
10	4			4	3	2	3	16
11				4	2	2	4	12
12	2	1		1		3	2	9
09.01	2			5	1	1	3	12
02		1	1	3	2	2	2	11
03	2			7		2	5	16
合計	17	2	2	37	15	17	49	139

表3 患者訪問と救急搬送実績 件数/回数

年月	病院へ搬送	AFMETにて手当	訪問処置	合計
08.04	6	4	1	11
05	12	2		14
06	9	1	2	12
07	7		3	10
08	5	1		6
09	10	1	2	13
10	11	4	1	16
11	5	7		12
12	7	2		9
09.01	9	1	2	12
02	6	4	1	11
03	12	4		16
合計	99	31	12	142

Ⅲ 人材の育成・研修事業

(1) 他団体(NGO)との協働

AFMETの活動の充実に向け、他NGOと積極的に協働した。

<AFMETと協働している主なNGO>

SHARE(日本)

MDM-Medicos do Mundo(ポルトガル)

Concern(アイルランド)

Plan(イギリス)

TAIS(アメリカ合衆国)

YayasanHAK(東ティモール)

Alora Foundation(オーストラリア)

Fraterna(東ティモール)

Ⅳ その他の活動

(1) 一時帰国

2008年4月1日～5月7日 佐藤 邦子一時帰国

(2) 報告会

2008年4月12日(土) カトリック北野教会(名古屋教区)

2008年4月13日(日) カトリック平針教会(名古屋教区)

2008年4月20日(日) 布池外語専門学校(名古屋教区)

2008年4月23日(水) 聖マリア小学校(横浜教区)

(3)その他

2008年8月 長期海外研修受け入れ(渡邊怜子)。NGO シェアー、ピースウィンズジャパン、聖母訪問会、清心侍女会の活動地等で研修実施。

2008年9月7日 ティモールフォーラム (在東ティモール日本人のための勉強会) 参加・交流元国連 UNTAET 代表 長谷川氏による講演。

2008年10月15日 東ティモール国営テレビ局 TVTL による AFMET 活動紹介 取材受け入れ 2009年3月に放映

2008年10月31日 ブリティッシュコロンビア大学 博士課程 東 代作氏による 東ティモール平和構築 リサーチ協力(ロスパロスにて)

2008年12月12日 日本大使館主催 天皇誕生日記念式典 参加・交流

2009年1月17日 日本大使主催 新年祝賀会 大使公邸にて 参加・交流

3. 調査活動

(1)カンボジア 2008年4月、6月、8月、9月、2009年2月、3月

JLMM カンボジアを訪ねステンミエンチャイ地区での活動並びにコンポルアンでの活動の視察、調整をスタディーツアーと兼ねて行った。

(2)タイ 2008年11月、2009年2月

チェンマイ DISAC を訪れ、現地での活動状況視察、調整を行った。

(3)東ティモール 2008年7月、2009年1月、3月

現地 AFMET を訪れ、事業の運営についての調整などを行った。

4. 研修

信徒宣教者派遣候補者として林愛子(大阪教区・登美が丘教会)、濱田麻里(東京教区・松原教会)、渡邊怜子(横浜教区・大和教会)の3名の研修を2008年4月9日から10月30日まで行った。

昨年度研修を実施しなかったが、今年度、コングレガシオン・ド・ノートルダム調布修道院内にある友愛の家に研修所をおき、研修を行った。

今年度の研修は、日本女子修道女総長管区長会「生涯養成コース」に参加し外部の研修を活用した。また、講師を招き種々の研修を行った。

オリエンテーション 2008年4月10日～11日

通常授業 2008年4月12日～10月23日

研修内容は次のとおり。

(敬称略)

	講師	研修名	
	森一弘司教	日本の福音宣教(生涯養成コース)	前期火曜日
	板垣 雄三	イスラム誤認	後期
	Sr.中島園江(マリアの宣教者フランシスコ修道会)	大人のカテケージス	前期月曜日
	ムケンゲンシャイ・マタタ神父(淳心会)	福音書と宣教	通年月曜日
	Sr.高橋睦子(幼きイエス会)	自分を知る	通年水曜日
	大森志帆	教会史	通年木曜日
	Sr. Elizabeth Kato(メリノール女子修道会)	英語	通年水曜日
	Sr.小野恭世(イエズス孝女会)	共同体づくり	通年木曜日
	漆原比呂志	JLMM の生き方	通年火曜日
	鈴木 隆	信徒の霊性	
	Sr.キャサリン(メリノール女子修道会)	禅体験	6月23日
	植松 功	テゼ	7月4日
	本田 まり	生命倫理	9月11日
	酒井信明	JLMM について	9月18日
	DARC	薬物依存症	10月15日

また、研修所等における学習だけではなく、長期海外研修など体験を交えた研修を行った。

体験学習は次のとおり

	期間	研修名	内容
	2008年5月19日から 2008年5月25日	川崎体験	労働問題、滞日在外外国人問題等について浅田教会(川崎市)に宿泊しながら、神奈川シティユニオンや大韓キリスト教会等において学ぶ
	2008年5月28日	荒川体験	東京・荒川付近をめぐり、被差別部落問題や性産業について学ぶ 講師:Sr.伊従直子(ベリス・メルセス宣教修道女会)
	2008年6月10日から 2008年6月15日	かなの家	「ラルシュ・かなの家」(静岡県)において、知的ハンディを持つ仲間と共に生活をしながら、作業やかかわりの中で「ともに生きる」ことの大切さを学ぶ

2008年7月30日から 2008年8月29日	長期海外研修	派遣地にインターン研修として課題をもって滞在。 現地の人々との出会いの中で、生活・文化を学び、活動に参加、課題に取り組む。 林愛子:カンボジア 濱田麻里:タイ 渡邊聡子:東ティモール
2008年9月27日	長期海外研修報告会	長期海外研修の報告を行う

こうした研修のほか、2回の黙想、週末の活動等を通じ、自分を見つめ、ミSSIONナリーとして派遣されるための見極め、また準備期間とした。

中間、最終黙想の期間、指導及び会場は以下のとおり

中間黙想 期間:2008年7月24日～27日
指導者: Sr. 大野恵子(聖母訪問会)
会場:聖母訪問会モンタナ修道院(神奈川県鎌倉市津550)

最終黙想 期間:2008年10月29日～31日
指導者: 英 隆一朗 神父(イエズス会)
会場:イエズス会黙想の家(神奈川県鎌倉市十二所80)

また、将来派遣地において教会や他のNGOなどと連携し活動する経験につなげることや、日本での人とのネットワークを深め支援者を増やすことなどから、例年どおりアポストライトスを行った。受け入れ先及び研修生は次のとおりである。

カトリック調布教会(林)
カトリック松原教会(濱田)
カトリック大和教会(渡邊)
女性の家 サーラー(林)
山友会(濱田)
セカンドハーベスト(渡邊)

5. 派遣

研修を終了した3名の信徒宣教者の派遣を行った。

また、所属教会において派遣式を行った。

派遣者

林 愛子(京都教区登美が丘教会)	カンボジア	2009年1月9日派遣
濱田 麻里(横浜教区松教会)	カンボジア	2009年1月9日派遣
渡邊 怜子(横浜教区大和教会)	東ティモール	2008年12月13日派遣

派遣式

2008年11月8日(土) コングレガシオン・ド・ノートルダム 調布修道院

小教区での派遣式

- | | |
|----------------|----------------|
| 2008年11月30日(日) | カトリック大和教会(渡邊) |
| 2008年12月21日(日) | カトリック松原教会(濱田) |
| 2008年12月28日(日) | カトリック登美が丘教会(林) |

6. 派遣候補者の募集と選考

2009年度派遣に向けた派遣候補者の募集を2008年8月より開始した。

今年度は、応募者の獲得と当会の活動の周知を行うため、派遣候補者募集説明会を実施し、全国から多くの参加を得て、JLMMの活動紹介並びに派遣候補者募集に関する説明や相談を行った。

派遣候補者募集説明会

1)大阪会場:

日時:2008年6月22日(日)15時から17時30分

会場:カトリック今市教会 3階会議室

2)東京会場:

日時:2008年9月29日(土)15時から17時30分

会場:フランシスコ会聖ヨゼフ修道院 1階ホール

また、派遣候補者には3名の応募があり、2008年11月24日(月)に派遣候補者選考試験を実施。2名の合格があった。

7. 帰国黙想会

帰国者がなかったため実施しなかった。

8. チャリティーコンサート

今年度は、計7回のチャリティーコンサートを開催した。また、カトリック新潟教区主催によるチャリティーコンサートも開催した。

1)～カンボジア・コンポルアン水上村活動支援のための～

「サクソで奏でる教会音楽の調べ」

名古屋を中心に活動されているサクソ・プレーヤー2名の協力を得て昨年度カトリック目黒教会(東京教区)、カトリック由比ガ浜教会(横浜教区)において開催したコンサートを名古屋教区において再演を行った。

奏者:所克頼、竹内幸枝、辻明美、大岡敦子(敬称略)

演奏内容:アヴェ・マリア、キラキラ星の主題による変奏曲より、イタリア協奏曲、G線上のアリアほか

①カトリック城北橋教会

日時:2008年7月19日(土)午後2時半開演

会場:カトリック城北橋教会 聖堂 (愛知県名古屋市中区金城1-1-57)

来場者数:164名

②カトリック瀬戸教会

日時:2008年7月20日(日)午後4時半開演

会場:カトリック瀬戸教会 聖堂 (愛知県瀬戸市苗場町66)

来場者数:111名

2) ～カンボジア・コンポンルアン水上村活動支援のための～

「長谷川ファミリーほのぼのコンサート」

ハーブ、ヴァイオリン、チェロ、ピアノで構成される福島県を代表する「長谷川ファミリー」の協力を得て、山形にて開催。

奏者:長谷川ファミリー、菅野真紀子(ピアノ)、長谷川朝子(ハーブ・歌)、長谷川千鶴(ヴァイオリン)、長谷川弘樹(チェロ)(敬称略)

演奏内容:いつくしみ深き、どんな時も、風林火山ほか

①カトリック米沢教会

日時:2008年10月14日(火)午後7時開演

会場:カトリック米沢教会 (山形県米沢市大町4-5-37)

来場者数:116名

②カトリック山形教会

日時:2008年10月15日(水)午後7時開演

会場:カトリック山形教会 (山形県山形市香澄町2-11-15)

来場者数:54名

3) ～アジアのお母さんと子どものための～

「サクセスで奏でるクリスマス音楽の調べ」

サクセスのソロ、デュオ、アンサンブルによるクリスマス音楽の演奏に加え、コンサートのために、有志によるコーラス隊を編成し、メサイヤより「ハレルヤコーラス」や「あめのみつあいの」をサクセスと共演した。

奏者:所克頼、竹内幸枝、辻明美、大岡敦子(敬称略)

コーラス指導:宮越俊光(敬称略)

演奏内容:ハレルヤコーラス、あめのみつかいの、パッヘルベルのカノン、シバの女王の入場、G線上のアリアほか

①カトリック雪ノ下教会

日時:2008年12月6日(土)午後6時半開演

会場:カトリック雪ノ下教会 (神奈川県鎌倉市小町2-14-4)

来場者数:197名

②カトリック高円寺教会

日時:2008年12月7日(日)午後6時半開演

会場:カトリック高円寺教会 (東京都杉並区高円寺南2-33-32)

来場者数:175名

4)カトリック新潟教会チャリティーコンサート

カトリック新潟教会主催によるチャリティーコンサート。コンポソルアン水上村での活動支援(識字教育)のために開催。

演奏内容:女声合唱:コーロ・ブリランテ 天にはさかえ、ひいらぎかざろう、ちいさなもみの木 ほか
ハンドベル:新潟清心女子中学・高等学校 クリスマスキャロル メドレー、アヴェ・マリア、ガリラヤの風かおる丘で ほか
パイプオルガン:渡辺直子 甘美な喜びのうちに、暁の星はいと美しきほか

日時:2008年12月20日(土)午後14時半開演

会場:カトリック新潟教会 (新潟県新潟市東大畑通一番町656)

9. CAMBODIA DAY

昨年度に引き続き、カンボジア・スタディーツアー参加者の同窓会を兼ねた「CAMBODIA DAY」を企画、開催した。

当日は、一時帰国中の浅野美幸、高橋真也によるカンボジア活動報告に加え、毎回のツアーで車の手配や運転をしているヴッタ氏を招き、約90名の参加者とともにカンボジアでの体験や思い出を分かち合った。

開催日時:2008年10月18日(土)午後2時

開催会場:フランシスコ会聖ヨゼフ修道院 1階ホール

10. 広報

(1)ミッション(ニューズレター)発行 他

ミッションNo.123~128 計6号を以下のとおり発行した。

No.	発行日	部数	内容
No.123	2008年5月23日	3,140部	・2008年度新派遣候補者からの挨拶 ・カンボジアからの手紙(高橋真也) ・カンボジアからの手紙(重富浩子) ・スタディーツアーのご案内 ・カンボジア報告会&募集説明会 in 大阪のお知らせ ・チャリティーコンサート in 名古屋開催のお知らせ
No.124	2008年7月8日	3,100部	・2007年度活動報告 ・スタディーツアーのご案内 ・DVD「マリア」JLMMバージョン発売のお知らせ ・チャリティーコンサート in 名古屋開催のお知らせ

No.125	2008年9月24日	3,100 部	<ul style="list-style-type: none"> ・カナダ聖体大会レポート ・チャリティーコンサート in 名古屋開催！ ・タイからの手紙 ・チャリティーコンサート in 山形開催のお知らせ ・映画「マリア」スペシャルパッケージ DVD 販売のご案内
No.126	2008年12月4日	3,200 部	<ul style="list-style-type: none"> ・特集：2008年度派遣式 ・カンボジア便り ・イベント・レポート ・事務局からのお知らせ
No.127	2009年2月5日	3,200 部	<ul style="list-style-type: none"> ・JLMM チャリティーコンサート開催 ・派遣を終えて 前編 ・新派遣者の近況 ・お知らせ
No.128	2009年3月25日	3,150 部	<ul style="list-style-type: none"> ・新派遣者からのレポート第1弾！ ・派遣を終えて 後編 ・お知らせ

(2) 広告掲載等

カトリック新聞 おおむね月1回年15回広告掲載。()は掲載サイズ

2008年 4月13日	スタディーツアー(年間)参加者募集(通常/2段5cm)
2008年 4月27日	スタディーツアー(年間)参加者募集(通常)
2008年 5月18日	スタディーツアー(年間)参加者募集(通常)
2008年 6月 1日	チャリティーコンサート名古屋(通常)
2008年 7月13日	スタディーツアー カンボジア・タイ参加者募集(通常)
2008年 7月20日	スタディーツアー カンボジア・タイ参加者募集(通常)
2008年 7月27日	スタディーツアー カンボジア・タイ参加者募集(通常)
2008年 8月17日	2009年度派遣候補者募集(大/3段1/4)
2008年 9月28日	2009年度派遣候補者募集(大)
2008年10月19日	2009年度派遣候補者募集(大)
2008年11月23日	クリスマス募金(大)
2008年12月14日	クリスマス募金(大)
2009年 1月25日	スタディーツアー カンボジア参加者募集(通常)
2009年 2月15日	スタディーツアー カンボジア参加者募集(通常)
2009年 3月15日	イースター募金(通常)

(3) チラシ配布

1) 広報チラシ作成配布

JLMM の広報、会員募集、募金を目的として郵便振替用紙付きカラー版チラシを作成し国内の教会へ配布した。

平和祈念募金	20,000部作成(2008年7月)
クリスマス募金	20,000部作成(2008年11月)
イースター募金	20,000部作成(2009年2月)

2) 広報用リーフレット作成配布

昨年度作成した JLMM 活動紹介リーフレット(カラー、A4版三つ折)の内容を見直し、作成、配布した。
(5,000部)

(4) 新聞・雑誌記事掲載

2009年 2月 1日	大阪カトリック時報2月号	カンボジア派遣報告(杉村太郎)
2008年 8月 3日	カトリック新聞	名古屋開催チャリティーコンサート
2008年 6月 1日	きずなNo.103	巻頭言(日笠山万希子) 共に生きることへの挑戦(佐藤邦子) 水上村での厳しい現実(高橋真也)
2008年 9月 1日	きずなNo.104	国際聖体大会に参加(高橋真也) 事務局訪問(日笠山万希子)
2008年12月 1日	きずなNo.105	新派遣者の紹介(濱田麻里、林愛子、 渡邊怜子) 水上村の子どもたちと共に(高橋真也)

12. 報告会・説明会・講演

カンボジア報告会

2008年 6月22日(日)	カトリック今市教会	重富浩子
2008年10月12日(日)	カトリック雪ノ下教会	浅野美幸
2008年10月14日(火)	カトリック米沢教会	高橋真也
2008年10月15日(水)	カトリック山形教会	高橋真也
2008年10月18日(土)	フランシスコ会聖ヨゼフ修道院	浅野美幸、高橋真也
2008年10月19日(日)	カトリック菊名教会	浅野美幸
2008年10月19日(日)	カトリック所沢教会	高橋真也
2008年10月26日(日)	カトリック由比ヶ浜教会	高橋真也
2008年10月26日(日)	カトリック貝塚教会	浅野美幸
2008年10月31日(金)	新潟清心中学校・高等学校	高橋真也
2008年11月 2日(日)	カトリック藤沢教会	高橋真也
2008年11月 4日(火)	日本カトリック海外宣教者を支援する会委員会	高橋真也
2008年11月 5日(水)	白百合女子大学	高橋真也
2008年11月 9日(日)	カトリック松戸教会	高橋真也
2008年11月30日(日)	真生会館	杉村太郎
2008年11月30日(日)	カトリック鹿島田教会	杉村太郎

2008年12月14日(日)	カトリック玉造教会	杉村太郎
2009年 2月 1日(日)	カトリック鷺宮教会	杉村太郎
2009年 2月 8日(日)	カトリック吹田教会	杉村太郎
2009年 2月12日(木)	援助マリア会	杉村太郎
2009年 2月15日(日)	吹田市内公民館	杉村太郎

タイ報告会

2008年 5月 4日(日)	カトリック健軍教会	日笠山万希子
2008年 6月 6日(金)	暁星中学高等学校講演	日笠山万希子
2008年 6月15日(日)	カトリック末吉教会	日笠山万希子
2008年 6月22日(日)	カトリック三笠教会	日笠山万希子
2008年 6月23日(月)	WAVOC	日笠山万希子

東ティモール報告会

2008年 4月12日(土)	カトリック北野教会	佐藤邦子
2008年 4月13日(日)	カトリック平針教会	佐藤邦子
2008年 4月20日(日)	布池外語専門学校	佐藤邦子

長期海外研修報告会

2008年 9月27日(土)	フランシスコ会聖ヨゼフ修道院 研修生
----------------	--------------------

派遣募集説明会

2008年 6月22日(日)	カトリック今市教会
2008年 9月27日(土)	フランシスコ会聖ヨゼフ修道院

その他

2008年 4月28日(月)	全国カトリック学校 学校長の集い	漆原比呂志
2008年 6月 1日(日)	京都教区ファミリーデー	林愛子
2008年 7月 1日(火)・8日(火)	日本女子修道会総長管区長会生涯養成コース講義	漆原比呂志
2008年 7月 2日(水)	横浜雙葉総合学習高校2年生	漆原比呂志
2008年10月 2日(木)	礼拝会職員研修講話	漆原比呂志
2008年10月21日(火)	カリタス小学校	研修生
2008年11月16日(日)	カトリック津久井教会	研修生
2008年11月23日(日)	カトリック中原教会	研修生
2008年12月 4日(水)	聖心女子大学	小林由加
2008年12月 7日(日)	カトリック菊名教会	漆原比呂志

13. バザー・イベント等への参加・企画協力

2008年 4月13日(日)	カトリック雪ノ下教会福祉バザー出展
2008年 4月27日(日)	インターナショナルデー出展
2008年 9月20日(土)	聖心女子大学宮代祭出展
2008年10月4日(土)・5日(日)	グローバル・フェスタ(日比谷公園)出展
2008年10月12日(日)	カトリック小金井教会バザー出展
2008年10月19日(日)	カトリック立川教会バザー出展
2008年10月25日(土)・26日(日)	カトリック山手教会バザー出展
2008年10月26日(日)	カトリック三軒茶屋教会バザー出展
2008年10月26日(日)	カトリック藤沢教会バザー出展
2008年11月 2日(日)	カトリック横須賀三笠教会バザー出展
2008年11月30日(日)	カトリック二俣川教会ミニバザー出展
2008年度(通年)	横浜雙葉中学高等学校 総合学習企画協力

14. スタディーツアー

諸団体からの依頼、会員や一般参加者に向けスタディーツアーの企画を行った。

(1)「鎌倉げんきかい」カンボジアスタディーツアー

2008年4月3日 事前説明会

2008年4月16日～22日 参加者8名

行程:シエムリアップ→プノンペン

(2) 礼拝会青年ボランティアスタディーツアー(カンボジア)

2008年6月2日～10日 参加者6名

行程:プノンペン→コンポンルアン→シエムリアップ

(3) 礼拝会グループ カンボジアツアー

2008年6月25日～30日 参加者10名

行程:プノンペン→シエムリアップ

(4) JLMMカンボジアスタディーツアー

2008年7月31日～8月9日 スタディーツアー 参加者14名

行程:プノンペン→コンポンルアン→シエムリアップ

(5) JLMMベトナム・カンボジアツアー

2008年7月8日 事前説明会

2008年8月25日～9月4日 参加者14名

行程:ホーチミン→プノンペン→コンポンルアン→シエムリアップ

(6) 専修大学 SIA カンボジア・スタディーツアー

2009年2月4日～13日 参加者13名

行程: プノンペン→コンポンルアン→コンボンソム→シエムリアップ

(7) 横浜教区第3・第4地区大学生中心タイスタディーツアー

2009年3月6日～15日 参加者9名

行程: バンコク→チェンマイ→メーサイ→チェンマイ→バンコク

(8) 近畿日本ツーリスト主催 中学生・高校生のための海外研修 カンボジア

2009年3月8日 事前説明会

2009年3月25日～31日 参加者7名

行程: プノンペン→タケオ→シエムリアップ

15. 会議

(1) 運営委員会

開催回	開催日	会場	議 題
第1回	2008年 5月27日	フランシスコ会ヨ ゼフ修道院	<ul style="list-style-type: none">・各国・国内活動状況について・正副運営委員長の選任について・2007年度事業報告(案)及び収支決算(案)について・その他(チャリティーコンサート開催についてほか)
第2回	2008年 9月22日	六本木フランシス カン・チャペルセ ンター	<ul style="list-style-type: none">・各国・国内活動状況について・副委員長の選任について・2008年度派遣先について・2009年度派遣候補者募集について・その他(チャリティーコンサートについてほか)
第3回	2008年 12月15日	六本木フランシス カン・チャペルセ ンター	<ul style="list-style-type: none">・各国・国内活動状況について・2009年度派遣候補者選考試験結果について・その他(チャリティーコンサートについて)
第4回	2009年 2月23日	六本木フランシス カン・チャペルセ ンター	<ul style="list-style-type: none">・各国・国内活動状況について・任期延長申請について・2009年度事業計画(案)及び収支予算(案)について・JANIC 団体会員入会について・その他(2009年度研修について)

(2) CAMBODIA DAY 実行委員会

2008年10月18日開催の CAMBODIA DAY を実行委員会形式で開催した。

委員: 對馬徹、町田春海、吉原マリ子、阿部桂子、山田祐希、阿部有佳子(敬称略)

会議: 2008年8月11日(月)、9月29日(月)

(3) グローバル・フェスタ実行委員会

2008年10月4日、5日に日比谷公園にて開催されるグローバル・フェスタ出展にあたり、JLMM 支援者を中心に実行委員会を発足。出展に向け企画、準備、実施した。

出展内容は協議の結果、エコロジーを意識し、カンボジア NGO ラチャナに依頼し、風呂敷、箸袋等製品開発を行った。

委員: 岸野真理子、對馬徹、小野千尋、町田春海、石倉裕也(敬称略)

会議: 2008年8月7日(木)、9月3日(水)

16. 所属団体等

2009年3月31日現在、当会が所属する団体等は次のとおりである。

日本カトリック司教協議会 公認団体 (2002年5月9日加盟)

貸借対照表

日本カトリック信徒宣教者会

2009年3月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
預金	2,772,032	
流動資産合計		2,772,032
2 固定資産		
什器備品	376,892	
電話加入権	74,984	
固定資産合計		451,876
資産の部合計		3,223,908
II 負債の部		
1 流動負債		
預り金	75,491	
流動負債合計		75,491
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産	4,379,365	
当期正味財産減少額	△ 1,230,948	
正味財産合計		3,148,417
負債及び正味財産合計		3,223,908

収支計算書

日本カトリック信徒宣教師会

自2008年4月1日 至2009年3月31日

NO. 1

(単位:円)

収入の部

科 目 名		08年度予算A	08年度決算B	増減額B-A	増減率 B/A	備 考
収入の部	会費収入	2,000,000	1,780,000	△ 220,000	89.0%	
	寄付金収入	25,000,000	17,071,320	△ 7,928,680	68.3%	
	助成金等収入	0	3,400,000	3,400,000		AFMET
	受取利息	1,000	2,516	1,516	251.6%	
	雑収入	10,000	0	△ 10,000	0.0%	
	当年度収入合計(A)	27,011,000	22,253,836	△ 4,757,164	82.4%	
前年度繰越金(B)		2,300,000	4,290,715	1,990,715	186.6%	
収入合計 (C)=(A)+(B)		29,311,000	26,544,551	△ 2,766,449	90.6%	

支出の部

科 目 名		08年度予算A	08年度決算B	増減額B-A	増減率 B/A	備 考		
支出の部	運 賃	1. 人件費 (D)	7,666,000	7,663,343	△ 2,657	100.0%		
		給料手当	6,144,000	6,144,000	0	100.0%	2名分	
		通勤手当	588,000	587,760	△ 240	100.0%		
		退職金	0	0	0			
		法定福利費	920,000	917,897	△ 2,103	99.8%		
		福利厚生費	14,000	13,686	△ 314	97.8%	健康診断	
	営 業 費	事務管理費	2. 事務運営費 (E)	2,006,000	2,167,427	161,427	108.0%	
			会議会場費	20,000	5,000	△ 15,000	25.0%	運営委員会
			会議食事代	0	0	0		
			会議旅費交通費	0	0	0		
			電話料	480,000	376,440	△ 103,560	78.4%	
			郵便切手送料	130,000	125,850	△ 4,150	96.8%	
			印刷コピー代	60,000	167,334	107,334	278.9%	
			備品費	250,000	395,418	145,418	158.2%	PC2台
			旅費交通費	70,000	39,550	△ 30,450	56.5%	
			消耗品費	80,000	25,783	△ 54,217	32.2%	
			リース料	726,000	738,600	12,600	101.7%	
			支払手数料	80,000	215,252	135,252	269.1%	振替手数料等
			諸会費	10,000	10,000	0	100.0%	司教協議会公認団体
			水道光熱費	70,000	58,200	△ 11,800	83.1%	
	維持管理費	10,000	0	△ 10,000	0.0%			
	慶弔費	20,000	10,000	△ 10,000	50.0%			
	運営費支出合計 (F)=(D)+(E)		9,672,000	9,830,770	158,770	101.6%		
活 動 費	活動費	研修費	1,851,000	2,577,515	726,515	139.2%		
		派遣活動費	9,346,000	4,780,882	△ 4,565,118	51.2%		
		調査研究費	3,413,000	3,123,817	△ 289,183	91.5%	職員1名分含む	
		広報活動費	2,820,000	3,348,645	528,645	118.7%		
		行事費	325,000	186,381	△ 138,619	57.3%		
活動費支出合計 (G)		17,755,000	14,017,240	△ 3,737,760	78.9%			
運営費活動費計 (H)=(F)+(G)		27,427,000	23,848,010	△ 3,578,990	87.0%			
財務支出合計 (I)		0	0	0				
当年度支出合計 (J)=(H)+(I)		27,427,000	23,848,010	△ 3,578,990	87.0%			
当期収支差額 (K)=(A)-(J)		△ 416,000	△ 1,594,174	△ 1,178,174	383.2%			
次期繰越収支差額 (L)=(C)-(J)		1,884,000	2,696,541	812,541	143.1%			

正味財産増減計算書

日本カトリック信徒宣教者会

2008年4月1日から2009年3月31日まで

(単位：円)

科 目	金 額		
I 増加の部			
1 資産増加額			
固定資産	395,418	395,418	
増加額合計			395,418
II 減少の部			
1 資産増加額			
減価償却費	32,192		
当期収支差額	1,594,174	1,626,366	
減少額合計			1,626,366
当期正味財産減少額			△ 1,230,948
当初正味財産額			4,379,365
期末正味財産合計額			3,148,417

計算書類に対する注記

1 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却について

有形固定資産の減価償却は定額法を採用している。

(2) 資金の範囲について

資金の範囲には、現金預金、未収金・未払金、前払金・前受金、立替金・預り金及び前払費用を含めることにしている。なお、当期末残高は2に記載のとおりである。

2 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

科目	前期末残高	当期末残高
預金	4,365,329	2,772,032
合計	4,365,329	2,772,032
預り金	74,614	75,491
合計	74,614	75,491
次期繰越収支差額	4,290,715	2,696,541

3 有形固定資産の取得価額、当期償却額及び当期末残高は、次のとおりである。

科目	取得価格	前期末残高	当期償却額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	668,733	409,084	32,192	△ 291,841	376,892
合計	668,733	409,084	32,192	△ 291,841	376,892

2008年5月1日パソコン1台（取得価格 199,438円）を購入した。

2009年2月18日パソコン1台（取得価格 195,980円）を購入した。

監査意見書

日本カトリック信徒宣教者会会則第13条第4項の規定に基づき、2008年度における事業の執行状況並びに財務の状況について、当該年度の活動報告書及び収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表並びに財産目録、更にはこの内容を証する関係諸帳簿、証拠書類等を精査したところ、いずれも適正に処理されていると認められた。

2009年6月11日

日本カトリック信徒宣教者会

監事 (財務)

徳 彦



2009年6月17日

日本カトリック信徒宣教者会

監事 (事業)

荒川 治

